

# ビオトープ・イタンキ通信 第9号

NPO法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭 2016年11月1日

NPO 法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭では「ホテル再び、人にやさしい街・室蘭」を合い言葉にビオトープ作りを進めています。原始のままの海岸線、鳴り砂の浜に続く草原の一角に、今は失われてしまった湿地を復元し、子供たちが生き物と触れ合える場の再生を目指しています。

## ◆活動日に～

6月の活動日は、2回目のエゾエンゴサクの球根植えでした。球根といっても大は親指くらいから、小は小豆粒くらいのかわいらしいもの。畑の天敵、外来種のイワミツバを引き抜くところから作業開始です。今年の春早くには、昨年植えた球根が青い花を咲かせ、そちこちに揺れていました。もっともっとと、群生を夢みて、飛び散る土や汗とたたかい、作業を続けました。

作業を終えて木陰から出ると、池のほとりの草の上にカメムシを2匹発見。背中に赤い線が入っています。シロスジコガネがいるのだから、アカスジカメムシもいるかも・・・と図鑑をみたらその通りで、何も知らなかった私もメンバーらしくなってきたと嬉しくなりました。

輪西から下りてくる山側に目をやると、オオウバユリがすくと



エゾエンゴサク



オオウバユリ

立っているのが見えました。あっちにもこっちにもと次々に声があがります。いつもの夏は、オオイトドリが丈高く密生していたのですが、今年は、メンバーの努力でそれがすっかり刈り取られ、良く見えるようになったのだとわかりました。

いつも新しい発見のあるビオトープ活動日です。

8月には、オニグルミをたくさん植えたメンバーもいます。トンボやホテルが飛び交うのを願って続けてきたビオトープイタンキに、シジミチョウやアゲハチョウの舞う日を、そして、エゾリスの遊ぶ日をと、夢は続いていきます。この楽しい夢をつないでいく仲間がふえてほしい。一緒に活動しませんか。

(渡辺 英子)